Koyo SSH news 2024 第29号

編　集：SSH推進部
発行日：令和6年11月

和歌山が世界に誇るものづくり企業見学会

１１月１１日（月），和歌山商工会議所と連携して「和歌山が世界に誇るものづくり企業見学会」を，１年生普通科対象に実施しました。以下の企業のうち，いずれかをクラス単位で訪問しました。

・セイカ株式会社（和歌山工場）　・株式会社島精機製作所　・株式会社日本化学工業所
・紀州技研工業株式会社　・新中村化学工業株式会社　・太洋テクノレックス株式会社

以下，生徒の感想です。「和歌山に関する知識も増えたし，化学を勉強するきっかけにもなって良かった。」「とても楽しく，ためになったので，こういう機会をもっと増やしてほしいと思いました。」「文系でも理系でも理系の企業にいけると教えてくださったので，未来が広がった気がしました。」「人間性のような部分を学ばせてもらうことができました。」

３年生環境科学科　Ｄ－１グランプリを実施しました！

環境科学科３年生「ＳＳ環境科学探究Ⅵ」の授業では毎年，ディベート本戦（Ｄ－１グランプリ）を行っています。ディベートは，ある論題（テーマ）について，肯定派と否定派が議論を繰り広げ，その議論を聞いていた第三者が審判となり，どちらがより説得力があるかを判定します。ディベート学習を通して，論題背景や発言内容等の理解力，発言内容を客観的に分析する力（批判的思考力），自らの考えを的確に効率よく伝える伝達力等が身に付きます。１１月１１日（月），『まちの防災機能向上のため，住宅密集地域における修繕見込のない古い家屋は壊すべきである。是か非か。』『人工知能の開発と普及を積極的に行うべきである。是か非か。』についてディベートの本戦を行いました。審判には中学３年生，高校２年生普通科文系・環境科学科の生徒が参加しました。当日は，非常に白熱した論戦が繰り広げられました。以下，生徒の感想です。「肯定側と否定側両方の準備をすることによって，メリットデメリットの両方を深く知れるからすごいなと思った。」「難しい言葉も多くて，さすが３年生だと思いました。立論もわかりやすかったです。」「立論に対する反駁が聞きごたえがあった。」「論理的に道筋を立てていて反駁をしているのは僕たちにはなかなかできないことなので素晴らしいなと思いました。」「自分のディベートを頑張ろうと刺激をもらえた。」

（日刊）わかやま新報　（平成5年7月19日第3種郵便物承認）

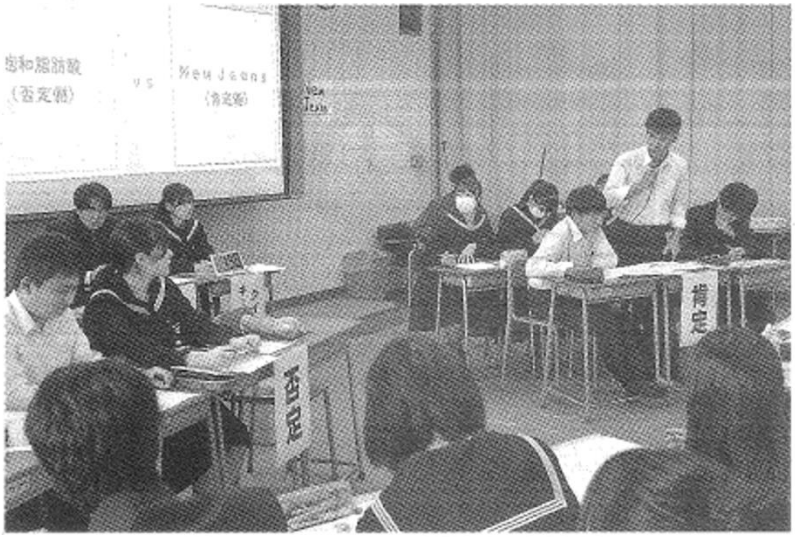
防災をテーマに熱論

向陽高校でディベート大会

文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている和歌山市太田の向陽高校（松本泰幸校長）で11日、ディベート（討論）大会が開かれた。まちの防災力強化に空き家問題を盛り込んだテーマなどで、3年生が肯定派と否定派の各7人のチームに分かれて白熱した議論を展開した。

情報収集や分析から、言語表現力、資料批判力、科学コミュニケーション力などを養うために開かれている。

大会には同高3年の環境科学科の生徒約80人が参加。同高2年生、同中学校3年生も聴講し、審判として勝敗を判定する形式で行われた。



肯定派、否定派に分かれて意見を主張する生徒ら

「まちの防災機能向上のため、住宅密集地域における修繕見込みのない古い家屋は壊すべきである。是か非か」という討論では、両チームが過去に日本で起こった地震の被害データを紹介しながら、設けられた制限時間内で意見を発表した。

肯定派は能登半島地震の被害を踏まえ、「石川県では判明した死因の8割が家屋倒壊。道をふさいだり火災の原因になったりするので古い家屋は取り壊すべき」と主張した。

その後「取り壊しに関する国・自治体からの補助金や税金」と「防犯面」といった切り口で論議を展開。否定派からは「固定資産税の減額措置があるが、取り壊すと税額が見直され負担が増える。取り壊しに補助金が出ても結局は税金。全体の負担でいうと変わらないのでは？」などの意見が出た。

肯定派として討論した3年の市川志穏さん（17）は、「何回も練習して挑んだが、相手の立論も説得力があり、苦戦した。負けてしまったが、相手から知らないデータが獲得できて新しい学びができた」と笑顔。審判役の3年の新谷翔汰さん（18）は「肯定、否定のお互いの掛け合いが面白かった。自分たちと違う視点が聞けて参考になった」と話した。

SSH推進部長の谷地祐介教諭（35）は、「3年生は受験勉強もある中で準備段階から頑張っていた。審判役の2年生は来年、討論側に立つので先輩から良い刺激を受けたと思う」と話した。

全てのチームが論題について肯定と否定の両方の意見を用意しており、他にも「人工知能の開発と普及を積極的に行うべきである。是か非か」のテーマでも議論された。

２０２４年１１月１４日　わかやま新報